

1. 活動期間

2024年12月25日（水）9時30分～16時

2. 活動場所

避難所：1) 珠洲市立大谷小中学校避難所：石川県珠洲市大谷町1字78番地

3. 石川県珠洲市の被害状況（12月24日14:00時点 石川県庁情報179報）

人的被害 死者：146人 うち災害関連死：49人 負傷者：重傷 47人、軽症 202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊：5,573棟 非住家被害：6,184棟

市町一次避難所：開設2か所 避難者数12人

4. 避難所の状況

【避難者数】

12月25日 珠洲市立大谷小中学校避難所：登録者数0人

【避難所運営生活状況】

12月24日（火）に、最後まで残っていた避難者7名のうち4名は応急仮設住宅に転居し、3名は自宅に戻り避難者数は0名になっていた。12月25日（水）に、避難所の後片付けと清掃がスタッフ、住民、教職員、行政職、ボランティア等約40名により行われ、大谷小中学校避難所は閉鎖した。

5. 支援活動の実際

【避難所支援】

大谷小中学校避難所の後片付け、清掃に参加した。物資担当リーダーの指示の下に、それぞれの物資の搬送先が、大谷小中学校、大谷公民館、集会所、行政、廃棄処分、支援物資の衣類（翌日搬送用）等に分けられた。活動隊員は、中2階にあるクリーニング済の毛布、布団、クリーニングなしの約100枚位の布団類の仕分けを行った。一時帰宅者用のためのクリーニング済の布団一式を大谷公民館用、他の再利用は行政に、廃棄処分に仕分けして搬送した。その後体育館のブルーシートの除去や玄関のポスターはがし等を行った。清掃予定は12月25日、26日の2日間の予定であったが、全員の協力の元に、ほぼ1日で後片付け清掃が終了した。住民からは、避難所に感謝の言葉が聞かれ、物資担当のリーダーは、「明日からゆっくり眠れます」と語られていた。

6. 支援活動を通しての所感と課題

大谷小中学校避難所は、1月1日の地震発災後の開設時は最大400名が避難された。その後も2次避難や救急感染対応、支援物資対応等の多種多様に渡る課題や、9月の豪雨災害の2重被災からも地元の自主防災組織、住民ボランティア、医療福祉団体、行政職等が連携して被災者の命と生活を支え最後の一人まで見送ることができた。約1年間、避難所運営支援を行った常駐運営スタッフのご苦勞をねぎらいたいと考える。また、日本災害看護学会も1月10日から交代で継続して看護支援に入らせていただき、災害関連死防止に貢献できたことや避難所解消という最後の場面に関わることができたことは、活動隊員の学びや今後の支援活動への励みになったと考える。

今後も住民には、応急仮設住宅や在宅での孤立を予防し、災害関連死を防止する見守り支援が必要である。

7. 現地の様子 (写真掲載の許可あり)



写真1 本部横の片付け前の状態



写真2 本部横の片付け後の状態



写真3 布団類の仕分け前の状態
クリーニング未と済が混在している



写真4 仕分け物 搬送後の
玄関ホール